パナマ内政・外交（２０１４年１月）

【概要】

（内政）

○最高裁長官としてアジュ・プラド判事が任命された。

○政党無所属大統領候補３名が選挙裁判所により公認された。

○各政党大統領候補が、副大統領候補を指名した。

○ヌニェス外相が辞任した。

（外交）

○北朝鮮籍船乗組員のうち３２名の解放が決定された。

【本文】

１．内政

（１）国会審議等

（イ）２日、アジュ・プラド最高裁判事が最高裁長官として選出された。

（ロ）１０日、政令によりフアン・カルロス・イジュエカ・コヤド（Juan Carlos Illueca Collado）氏が内務次官に任命された。また、同省先住民問題担当次官にはToribia Venado氏が任命された。

（ハ）コルテス労働開発大臣が１５日、アリアス大統領候補の選挙キャンペーンを補佐するため２月２日より大臣職を休職する旨発表した。

（ニ）マルティネリ大統領は、２０日、カマチョ商業産業次官の無給休暇入りを承認した。休暇開始は２月１日からで５月１１日まで私的な理由により休暇を取るとしている。

（２）次期総選挙に向けた動き

（イ）７日、ナバーロＰＲＤ党大統領候補は、次期大統領選挙に向けた自身の政策プランを公表した。「El Plan de Todos」と銘打った政策プランは６つの軸から構成され、「基礎食料品値下げ」「治安改善」「貧困・不平等の削減」「人間味のある経済成長」「環境」「民主主義及び教育保護」とされた。

（ロ）４日、５月４日に実施される総選挙に出馬する無所属大統領候補の出馬が締め切られ、１０日、選挙法規定に従って右候補３名が確定した旨選挙裁判所が発表した（今次総選挙から無所属候補も大統領選に出馬できるようになったが、正式に大統領候補として承認されるには最低でも２００９年選挙での有効票の１％である１５，８６４名分の署名を集めて選挙裁判所に出馬を申請する必要があった。また、右条件を満たす出馬者が３名を超える場合には有効署名数上位３名のみが大統領候補として残ることが規定されていた。）。無所属大統領候補として承認されたのは、ヘラルド・ソリス前選挙裁判所長官、公共交通機関会議所会長を長年勤めた経験を持つエステバン・ロドリゲス氏、ラジオ番組で活躍するヘラルド・バローソ氏の３名で、出馬申請をしていたフアン・ホバネ・パナマ大学経済学教授は署名数がその他３名に及ばず落選となった。

（ハ）１２日、ＰＲＤ党大統領候補であるナバーロ同党書記長は、自身の大統領選挙出馬に際する副大統領候補としてヘラルド・ソリス前選挙裁判所長官を指名し、同党役員会で承認された。同氏が副大統領候補として出馬することで、無所属大統領候補に１人分空席が出ることになった。

（ニ）ソリス無所属大統領候補が、ＰＲＤ党副大統領候補として出馬することが公表されたことを受け、選挙裁判所は、ソリス氏が大統領候補としての出馬を明示的に辞退するのであれば、無所属大統領候補に出馬申請していたものの署名数でその他３名に及ばなかったため落選となったホバネ候補を繰り上げ当選する用意があるとしていた。右状況を受け、ソリス大統領候補は、２１日、選挙裁判所に赴き大統領候補出馬を辞退する手続きを行ったため、選挙裁判所はホバネ氏の繰り上げ当選につき最終検討を行っていたが、２５日、正式にホバネ氏に無所属大統領候補と認定する信任状を授与した。

（ホ）選挙裁判所は、５月４日に実施される総選挙を前に、選挙人総数を2,457,401名と公表した。因みに、2009年総選挙では、選挙人数は、2,211,261名であり11％選挙人増となった。選挙人数トップはパナマ県で1,196,908名、チリキ県310,996名、ベラグアス県178,616名、コクレ県172,750名、コロン県169,057名と続いている。

（ヘ）パナメニスタ党のパナマ市長候補であるブランドン国会議員が、２１日、Raisa Bansfield氏（無所属、環境活動家）と選挙裁判所に赴き、同氏をパナマ副市長候補（パナメニスタ党）として登録した。

（ト）２２日、アリアスＣＤ党大統領候補の次期政権に向けた政策プラン「Plan Panama Mas」が公表された。同プランは１５の軸から構成され、イノベーション、経済発展、社会開発、不平等の削減などが主なポイントとなる。

（チ）２６日、パナメニスタ党・PP党連合副大統領候補として、外交官として活躍した経歴を持つ無所属のイサベル・サイマロ（Isabel Saint Malo）女史が、バレーラ・パナメニスタ党大統領候補により、副大統領候補として紹介された。なお、同氏は、バレーラ候補の政策プラン作成に深く関わっている。

（リ）２６日、パナマ大学にて経済学の教鞭を執るマリベル・ゴルドン（Maribel Gordon）女史がＦＡＤ党副大統領候補として選出され党執行部より承認を受けた。同氏は、ＦＡＤ党副代表を務め、同党選挙戦に際しロペス同党大統領候補の政策プラン作成にも関わっている。

（ヌ）２９日、マルタ現大統領夫人が、正式なCD党・モリレナ党連合副大統領候補として指名され同党執行部により右が公表された。

（ル）２９日、無所属大統領候補のエステバン・ロドリゲス氏が、弁護士のSarai Blaisdell女史を自身の副大統領候補として紹介した。

（３）マルティネリ大統領年頭演説

　２日、マルティネリ大統領は、国会にて恒例の年頭演説を行い、現政権で実施してきた公共事業、教育システム強化、健康・保健分野でのサービス改善、治安改善、貧困層のための社会政策、最低賃金底上げにかかる尽力、公共交通機関整備、農業復興に向けた政策等々をアピールした。

（４）ヌニェス外務大臣の辞任

　３１日、ヌニェス外務大臣が、自身の健康状態及び外遊の負担を理由に辞任した。真の辞任の理由として様々な憶測がなされているが、様々な外交事案における対応のまずさを理由にマルティネリ大統領より辞任を迫られたとも言われている。同大臣は、今後出身地であるコクレ県アグアドゥルセ市で隠居生活を送ると述べている。

　野党からは、今回の外相辞任に関し、一政権で５人目の外相が就任する事態はパナマ外交の機能不全を示すものであるとの声も聞かれる。

（５）世論調査結果

（イ）Dichter & Neira社（詳細は別添エクセル資料①ご参照）

　「Dichter & Neira社」が実施した２０１４年１月のアンケート調査結果以下の通り。（右調査は１月１０日～１２日、１７日～１９日全国成人１，２００名を対象に実施された）。なお、本件調査にダリエン県及び先住民自治区は含まれていない。

●マルティネリ大統領の仕事振りに対する評価

　　　　　　　　　　 13年5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 14年1月① 1月②(%)

　①非常に良い　　　　　 　11　11　13　14　16　 15　 15　 16　　　16　　15

　②良い　　　　　　　　 　54　50　50　51　53　 46　 47　 52　　　55　　54

　③悪い　　　　　　　　 　27　28　27　24　23　 29　 27　 22　　　21　　21

　④非常に悪い 　 5　 5　 6　 6　 4　　8　 7　 6　　　 4　　 5

　⑤分からない・無回答 　3　 6　 4　 5　 4　　2　　4　　4　　　 4　　 5

●政府の仕事振りに対する評価

　　　　　　　　　　　13年5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 14年1月① 1月②(%)

　①非常に良い　　　　　 　9　 9　10　11　11 　11　 12　 12　　 12　　10

　②良い　　　　　　　 　57　51　53　53　55　 52　 52　 56　 58　　59

　③悪い　　　　　　　　 27　29　28　26　26　 28　 26　 22　 22　　23

　④非常に悪い 　 3　 4　 5　 5　 4　 6　　5　　5　 　4　　 4

　⑤分からない・無回答 4　 7　 4　 5　 4　　3　　5　　5　　　 4　　 4

●大統領選挙でどの候補に投票するか

　　　　　　　　　　　　　　13年12月 14年1月① 1月②（%）

　①アリアスCD党候補　　　　　　　39　　　38　　39

　②ナバーロPRD党候補　　　　　　 23　　　21　　24

　③バレーラ・ﾊﾟﾅﾒﾆｽﾀ党候補　　　 25　　 25　　22

　④ロペスFAD党候補　　　　　　　　2　　　 3　　 2

　⑤分からない・無回答　　　　　　 9　　　11　　11

●パナマ市長選でどの候補に投票するか

　　　　　　　　　　　　　　　　　　13年11月 12月 14年1月（%）

　①ブランドン・パナメニスタ党候補　　　　34　 30　　　31

　②メンデスCD党候補　　　　　　　　　　　33　 21　　　27

　③ファブレガPRD党候補　　　　　　　　　 24　 34　　　26

　④誰にも投票しない　　　　　　　　　　　 3　　8　　　12

　⑤分からない・無回答　　　　　　　　　　 6　　7　　　 4

（ロ）IPSOS社（詳細は別添エクセル資料②ご参照）

　「IPSOS社」が実施した2014年1月17日～20日の世論調査結果が、ラ・エストレージャ紙により発表された。右調査は、全国成人１，５００名を対象に実施された。

●マルティネリ大統領の仕事ぶりに対する評価

　　　　　　　　13年12月 14年1月（%）

　①非常に良い　　　　 9　　　12

　②良い　　　　　　　40　　　39

　③普通　　　　　　　29　　　30

　④悪い　　　　　　　14　　　13

　⑤とても悪い　　　　 5　　　 5

　⑥分からない　　　　 3　　　 1

●今日が投票日であったとしたらどの大統領候補に投票するか

　　　　　　　　　　　　　　　　　13年12月 14年1月（%）

　①アリアスCD党候補　　　　　　　　　　30　　　31

　②ナバーロPRD党候補　　　　　　　　　 25　　　25

　③バレーラ・パナメニスタ党候補　　　 22　　　19

　④ロペスFAD党候補　　　　　　　　　　　　　　　1

　⑤未定　　　　　　　　　　　　　　　　13　　　16

　⑥無回答　　　　　　　　　　　　　　　 6　　　 5

　⑦無効票　　　　　　　　　　　　　　　 3　　　 2

（ハ）Quantix社

　「Quantix社」が実施した2014年1月10日～12日の世論調査結果がラ・プレンサ紙により発表された。右調査は、全国成人１，２０８名を対象に実施された。興味深い点以下の通り。

●マルティネリ大統領の仕事ぶりに対する評価（％）

①とても良い　　　　　　　　８．６

②良い　　　　　　　　　　６１．２

③悪い　　　　　　　　　　２２．０

④とても悪い　　　　　　　　５．０

⑤分からない・無回答　　　　３．０

●当国における現在の主要な問題点（％）

①物価高　　　　　　　　　　３６

②治安　　　　　　　　　　　１３

③公共交通機関　　　　　　　　３

④低賃金　　　　　　　　　　１３

⑤政府汚職　　　　　　　　　１１

⑥ゴミ問題　　　　　　　　　　７

⑦水不足　　　　　　　　　　　４

⑧失業　　　　　　　　　　　　３

⑨教育制度不備　　　　　　　　２

⑩社会保険の劣悪なサービス　　３

⑪社会保険庁　　　　　　　　　０

⑫麻薬密売　　　　　　　　　　２

⑬住宅不足　　　　　　　　　　１

⑭分からない・無回答　　　　　０

⑮その他　　　　　　　　　　　２

●大統領選挙が本日開催されるとしたらどの候補に投票するか（「投票しない」と回答した者を除いた場合）（％）

①アリアスＣＤ党候補　　　　　　　　３５．５

②ナバーロＰＲＤ党候補　　　　　　　２８．０

③バレーラ・パナメニスタ党候補　　　２２．６

④ヘナロ・ロペスＦＡＤ党候補　　　　　０．４

⑤無所属候補　　　　　　　　　　　　　４．２

⑥分からない・無回答　　　　　　　　　５．２

⑦白票　　　　　　　　　　　　　　　　４．１

●本日総選挙が行われるとしたらパナマ市長としてどの候補に投票するか（％）

①メンデスＣＤ党候補　　　　　　　　２５．３

②ファブレガＰＲＤ党候補　　　　　　３４．０

③ブランドン・パナメニスタ党候補　　２４．１

④分からない・無回答　　　　　　　　１５．９

⑤無所属候補　　　　　　　　　　　　　０．５

２．外交

（１）マルティネリ大統領のダボス会議出席

　２２日、２３日、マルティネリ大統領は、ダボス会議に出席し、パナマ運河拡張工事のアピール、及びビジネス誘致活動を行った。その他、同大統領は、協力及び投資についてルッテ蘭首相と二国間会談を行った他、クラークＳＡＢミラー社長と会談した。また、同大統領は、シュワブＷＥＦ会長と会談し、ＷＥＦラ米会合の準備状況について説明した他、ネタニヤフ・イスラエル首相と会談し、農業及び科学分野における協力協定や良好な二国間関係について意見を交わした。

（２）ホンジュラス新大統領就任式へのマルティネリ大統領の出席

　２７日、マルティネリ大統領はヌニェス外相を伴ってエルナンデス・ホンジュラス新大統領就任式に出席した。テグシガルパ滞在中、マルティネリ大統領は、アティフェテ・ヤヒヤーガ（コソボ）大統領と二国間会談を行い、両国関係について話し合った。パナマとコソボは、昨年８月に外交関係を構築したばかり。

（３）パナマにおける北朝鮮籍船からの軍事物資押収事案

　３０日、アナ・ベルフォン検察庁長官は、３５名の乗組員のうち、船長、チーフオフィサー及び政務担当を除く３２名の解放を決定した旨公表した。また、同３名については、最長１２年の禁固刑の対象となる集団安全保障侵害の罪により裁かれることになると述べた。３２名の船員については、２８日に司法手続きから解放されたが、彼らが外国人であることから、引き続きシェルマン航空海上保安隊基地にて拘束されており、入国管理局の手続きを待っているところである。

　なお、２８日、２９日にハバナにて開催されたＣＥＬＡＣ首脳会議には、パナマからは外務省対外政策局長が代表として出席するなど、一部報道では、パナマ運河における北朝鮮籍船の拿捕事件に関してキューバ側から全く協力が得られなかったことがパナマにこのような対応を取らせたとされた。

（４）捕鯨問題（グリーンピース船舶によるパナマでの抗議活動）

　１月下旬、グリーンピース所有のRainbow Warrior III号がパナマ運河を通航した。この機会を捉え、同船舶は、パナマ政府に対して南極海域で２０１２年より日本の捕鯨船に燃料補給を行っている韓国のパナマ籍船Sun Laurel号の操業停止を求めてパナマ湾に数日間停泊した。グリーンピースは、「パナマ籍船が捕鯨に参加しているこの状況は、IWCにてパナマが示す立場と矛盾している。パナマは早急に同船の船籍を変更する必要がある。」とのプレスリリースを発出した。（注：パナマ政府は２００５年のＩＷＣ年次会合より捕鯨反対の立場を国際社会に明示しており、また、ホエールウォッチングを観光資源の一つとしている。）

（了）